

平成 25 年度 事業シート

第5次廿日市市総合計画（後期基本計画）

担当課名	建設部 都市・建築局 都市計画課		
予算科目目	会計	01	一般会計
	款	02	総務費
	項	01	総務管理費
	目	12	生活交通対策費

基本目標 1 健やかな暮らしを支え、安全で快適に暮らせるはつかいち
 政策目標 5 多様な暮らしが選べ、快適に暮らせるまちに
 重点的取組 4 手軽に出かけ、移動できる環境を整える

事業名	地域公共交通再編事業	事業開始年度	平成 22 年度
	生活交通の利便性の向上	根拠法令 条例 個別計画等	廿日市市生活交通再編計画 (平成23年3月)

1 事業の目的、意図

目的	【対象】誰の(何の)ために	【目指す姿・意図】(いつまでに、どういう状態に)
	路線バスの運行していない地区等のバス利用者	市民が手軽に出かけ、移動できる環境を整える。(生活交通として最低限の運行確保)

2 事業の実施主体・関係団体・役割

実施主体	関係団体(パートナー)	事業実施に係る市役所(職員)の役割
市	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 生活交通再編計画に基づき、バスの再編を行う。 廿日市市公共交通協議会を開催する。 沿岸部の系統整理を行い、実証運行を実施する。

3 平成 25 年度 予算（事業の内容・コスト情報・目標到達見込）

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 廿日市市公共交通協議会の開催（公共交通施策に係る関係機関の合意形成を図る） 構成員：学識経験者、住民代表、交通事業者、国、県、関連市等（年4回程度開催予定） 沿岸部バス見直しの概要 沿岸部自主運行バスについては、サービス向上に合わせた運賃見直しを行うことで、生活交通の利便性向上と持続可能な交通体系の構築を目指す。 【廿日市さくらバス】 現行の2車体制から1台増車し（佐伯の自主運行バス車両をシフト）、3車体制とすることで増便や時間延長、交通不便地区乗入れ等の要望に対応する。 【おおのハートバス】 現行の3車体制（東西横断ルート・東ルート・西ルート）から車両購入により4車体制とする。幹線としての東西横断ルートを2台で運行し、支線としての東・西ルートの役割を明確化することで、増便やわかりやすいダイヤ設定等の要望に対応する。 ※「150円運賃によるサービス向上(案)」を廿日市市町内会連合会、大野区長連合会に示し意見聴取。 事業費関連 【歳出】 公共交通協議会及び交通会議事務費 190 千円 沿岸部等運行計画策定業務委託料 5,250 千円 廿日市さくらバス運行負担金 15,200 千円 おおのハートバス運行負担金 10,800 千円 地域主体移動手段確保先進地視察 95 千円 (旅費・高速代・マイクロバス借上料) 計 31,535 千円 	
------	---	--

コスト情報(円)	項目		平成 23 年度決算	平成 24 年度予算	平成 25 年度予算
	財源内訳	直接事業費 A		11,770,000	19,619,000
財源内訳		国庫支出金			
		県支出金			
		借入金(市債)			
		その他(使用料など)			
	市(市税など)	11,770,000	19,619,000	31,535,000	
	人件費(按分) B		1.78 人 15,751,220	1.78 人 15,765,460	1.78 人 15,578,560
	総事業費(A+B)		27,521,220	35,384,460	47,113,560
ト換算	①	人口(4月1日現在)	118,353 人	118,353 人	118,000 人
		市民1人当たり	233	299	399
	②	利用者数	341,954 人	341,954 人	341,954
		利用者1人当たり	80	103	138

到達目標	活動及び成果指標		単位	H 23 実績値	H 24 目標値	H 25 目標値	H 27 目標値	備考
	活動	バス再編運行計画の策定 (佐伯、吉和、廿日市、大野の4地域)		%	50	50	100	100
成果	市自主運行バス利用者数		人	338,749	338,749	380,000	400,000	